グラスゴー・ブレークスルー

○　2021年11月、COP26において、議長国である英国が立ち上げを表明。2030年までに、クリーンな技術への転換を、国際的な連携・協力・調整を強化することで、加速することを目指し、温室効果ガス排出量の過半を占める、５分野（電力、陸運、鉄鋼、水素及び農業）での取組を開始。

○　英国を含む45か国及びEUが参画。（うち下記の16か国が農業分野に参画。）

○　①各分野状況を整理し、国際的な連携が必要な事項を特定した第三者によるレポートの発出　→　②レポートで特定された事項に対する活動計画の策定　→　③各国の協調した取組の実施、のサイクルを通じ取組を推進。

農業ブレークスルーの概要

目　標：2030年までに、気候変動に対して強靭で持続可能な農業が、世界中の農業者にとって、最も魅力的で広く受け入れられるものとなることを目指す。

参加国：豪州、ベルギー、カンボジア、加、デンマーク、エジプト、独、アイルランド、**日本**、ケニア、ラトビア、モロッコ、ナイジェリア、スウェーデン、UAE、英

（2023年５月９日現在）

我が国の対応

○「みどりの食料システム戦略」と理念が共通すること、農業分野における気候関連の研究開発やイノベーションの促進に向けた各国との意思疎通の場として有意義であること等から、2022年4月に参加。

○　農業分野の活動計画において、研究・開発を中心にフォローしていく方針。

（参考）これまでの経緯

2021年11月　COP26にて、英国が農業分野のブレークスルー立ち上げを表明。

2022年４月　日本として農業分野への参画を表明。

2022年９月　国際エネルギー機関（IEA）、国際再生可能エネルギー機関（IRENA）、国連気候ハイレベル・チャンピオンが協力し、５分野についてレポートを発出。

2022年11月　COP27にて閣僚級会合を開催し、レポートを元に立案したアクションプランを公表。

2023年５月　米国ワシントンD.C.で開催されたAIM for Climateサミットにおいて会合を開催（日本も参加）

BREAKTHROUGH AGENDA